

ほくと 子ども読書の杜プラン

=第四次北杜市子ども読書活動推進計画=
(令和7年度～令和11年度)



北杜市教育委員会

令和7年3月

はじめに

読書は、楽しいものであり、興味や好奇心を駆りたて、本を読んだ人は、自然と読書に対する関心が高まります。さらに、知識を広げ、想像力を養い、自己成長につながるといった副産物のあふれる活動であります。

歴史や科学、言語、文学、哲学など様々なジャンルやテーマから多くの知識を得ることができ、知識は、想像力を刺激し、創造力を高め、子どもたちは、そこから無限の可能性を引き出していきます。

小説や詩、空想の世界に入り込むことで、現実にはできない体験をすることができ、登場人物の喜びや悲しみ、葛藤や成長を通じて自分自身を見つめ直し、自分の考え方や価値観を広げます。また、ストレス解消や心の洗濯いわゆるリラックスにも効果を発揮します。

子どもたちの活字離れ、読書離れが社会的な課題となっている今、どうしたら読書意欲を生み、読書習慣を身に付けることができるのでしょうか。

子どもにとって面白いと感じる本を自由に選び、読書をする場所、スペース、コーナーなど居心地のよい空間を作り、家族でお互い読んだ本を共有したり、お気に入りの場面や登場人物など楽しさを共有することで、習慣化していきます。まずは、大人からその楽しさを味わうことを薦めます。

習慣化した読書活動は、心の成長を育み、人生を豊かにします。読書とともに歩む人生を42.195kmの長いマラソンに例えると、人生100年として3歳で1.3km、小学1年生で2.5km、6年生で5km、中学3年生で6.3km、高校3年生で7.5kmあたりを通過していることとなります。子どもたちの読書マラソンは、まだまだ序盤、始まったばかりです。

しかし、全体を通して見れば、この序盤こそが大切で、体を温めて自分のリズムを作る大事な時期であります。

この序盤にしっかり読書で心を温めておけば、100歳になるまで未永く本と共に暮らせる心の土台作りや生活のリズム作りが出来ると考え、読書習慣の定着のための様々な取組を、様々な角度から行っていくことが必要だと考えます。

また、学校や図書館には、子どもたちの読書のお手伝いやお勧めの本を教えてくれる本のプロがいます。いつでも声をかけてください。本のプロたちは、いつでも優しく皆さんのリズムやペースに併せ伴走してくれます。

市教育委員会では、ブックスタートや本の杜への招待、ブックトークや家読の推進など様々な活動を地域一体となって取り組んでおり、子どもの読書活動推進のため策定した、第三次推進計画の取組で見えてきた課題と考察を基に、この度、ほくと 子ども読書の杜プラン＝第四次北杜市子ども読書活動推進計画＝を策定しました。

令和7年3月

北杜市教育委員会教育長 清水 徳生

目 次

第1章	第四次計画策定の背景 -----	1
	1 子どもたちの置かれている環境 -----	1
	2 第四次計画策定までの経緯 -----	3
第2章	第三次計画における取組・成果及び課題 -----	4
	1 実施目標 -----	4
	2 達成状況 -----	4
	3 数値目標以外の取組状況 -----	9
	4 第三次推進計画における成果と課題 -----	19
第3章	第四次計画の基本的な考え方 -----	21
	1 基本的な考え方 -----	21
	2 国、県の基本的な考え方 -----	21
	3 社会全体で子ども読書活動を推進するために -----	22
	4 計画のめざすもの -----	22
	5 計画の期間 -----	22
第4章	子どもの読書活動推進のための具体的な方策 -----	23
	1 家庭における子どもの読書活動の推進 -----	23
	2 地域における子どもの読書活動の推進 -----	23
	3 学校における子どもの読書活動の推進 -----	24
	4 保育施設における子どもの読書活動の推進 -----	25
	5 行政による子どもの読書活動の推進 -----	25
	6 北杜市立図書館における子どもの読書活動の推進 -----	26
	7 子ども読書活動推進の啓発・普及 -----	27
	8 子ども読書活動推進体制の確立 -----	28
第5章	計画の推進に向けて -----	29
	1 数値目標 -----	29
	2 施策体系 -----	31
参考資料		

第1章 第四次計画策定の背景

1 子どもたちの置かれている環境

子どもの読書活動は、「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」(子どもの読書活動の推進に関する法律 第2条)であり、子どもが、未来をたくましく切り拓くための道標でもあります。

(1) 国・県の動向

国では、平成13年12月に成立した「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、令和5年3月に第五次の基本計画が策定され、翌年、県においても第四次推進実施計画が策定されました。

さらに、障がいの有無にかかわらず全ての子どもが等しく読書ができる環境の実現のため、令和元年6月に読書バリアフリー法が施行され、翌年7月には施策の一層の充実を図るため、読書バリアフリー計画が策定されました。

これに伴い、令和6年3月に県においても「山梨県読書バリアフリー計画」が策定されました。

(2) デジタル化の進展

急速なデジタル技術の進展やスマートフォンなどの情報通信手段の普及や多様化により、近年は子どもを取り巻く環境が大きく変わり、電子媒体による書籍や雑誌、漫画などが増加しています。

また、学校では、GIGA スクール構想¹⁾のもと1人1台端末の活用により、デジタル教科書の利用をはじめ、調査・探究活動や読書活動など幅広い活動が行われています。

(3) 新型コロナウイルス感染症の影響

令和2年1月から新型コロナウイルス感染症(以下「コロナ」という。)の影響が広がり、図書館の臨時休館や学校の臨時休校があり、読み聞かせやブックトークなどの読書活動も実施することができませんでした。

子どもたちが本に触れる機会の減少は、読書意欲の向上や読書習慣の形成に大きな影響を与えました。一方、オンラインやリモートワークなどにみられるように、デジタル化への進展及びデジタル技術の活用が加速度的に進むことになりました。

令和5年5月以降、コロナの感染症法上の位置付けが5類に移行されたことに伴い、

読書活動は、コロナ禍前の状況に戻りつつありますが、デジタル化を見据えた新しい局面を迎えているといえます。

(4) 本市の読書活動

本市では、第三次北杜市子ども読書活動推進計画を平成29年度に策定し、平成30年度から令和4年度までの5年間を計画期間としていましたが、コロナ禍で活動が停滞したことにより、県の計画延長に併せ、2年間延長し、令和6年度までとして改訂しました。その間も毎年、子どもの読書に関するアンケートを実施し、評価・検証をしてきました。

これまでの取組の内、幼少期から絵本に親しみ、図書館を身近に感じるきっかけづくりを目的としたブックスタート事業は、親子のコミュニケーションを深めることに役立ち、満足度も含め、成果が認められます。

「本を読むことが好きな割合」「図書館を利用する割合」は、小学校、中学校、高等学校と年齢が上がるにつれ、低下傾向にあり、アンケートでは、SNS やインターネットなど本以外での情報を得る機会があると回答する児童・生徒が増えています。

令和6年度はコロナが落ち着いたことから、保育施設や子育て支援センターでのおはなし会や読み聞かせ、学校では、ブックトークなどの活動が増え、図書館によるアウトリーチサービスも益々期待されるところです。

1)GIGA スクール構想:2019年に開始された、全国の児童・生徒1人に1台のパソコンやタブレットなどの端末と高速ネットワークを整備する文部科学省の取組。

2 第四次計画策定までの経緯

北杜市では、合併により北杜市立図書館が誕生して以来、平成16年6月に旧須玉町で策定した「須玉・子ども読書プラン」を基本方針(第一次)として、その後、平成24年度に第二次計画(平成25年度から平成29年度)、平成29年度に第三次計画(平成30年度から令和4年度)、令和4年度に第三次計画改訂版(平成30年度から令和6年度)を策定しました。

これら子どもの読書活動推進計画を基に、子どもが、いつでも、どこでも読書に親しむことができる環境を整えるために、家庭、地域、図書館、学校等が中心となり、子どもの読書活動を推進してきました。

今後も、子どもの読書活動を力強く推進していくため、子どもを取り巻く環境の変化に対応した取組や、これまでの着実な取組を継続していく必要があります。

つきましては、本年度(令和6年度)で第三次推進計画改訂版の期間が終了することに伴い、これまでの取組を振り返り課題を整理するとともに、今後の子どもの読書活動の基本方針を示すべく、第四次推進計画(令和7年度から令和11年度)を策定することとしました。

第四次北杜市子ども読書活動推進計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」第9条第2項の規定に基づく計画であり、国の第5次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画及び山梨県子ども読書活動推進実施計画(第4次)を指針とし、北杜市における子どもの読書活動の推進の状況を踏まえ策定するものです。

また、第3次北杜市総合計画の部門別計画において位置付け、本市の特性を踏まえた「読書活動」を推進するため、諸施策を策定します。

国、県、市の計画策定状況

項目	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
・国第4次基本計画	→							
・国第5次基本計画		→	→	→	→	→	→	
・県第3次推進計画 (改訂版)	→	→						
・県第4次推進計画			→	→	→	→	→	→
・市第三次推進計画 (改訂版)	→	→	→					
・市第四次推進計画				→	→	→	→	→

第2章 第三次計画における取組・成果及び課題

1 実施目標

平成29年度に策定した「第三次北杜市子ども読書活動推進計画」では、子どもが幼いときからいつでも身近な場所で本に触れ、読書に親しむことができる環境を整えるため、次の4つの実施目標を設定し、家庭、地域、図書館、学校等が、それぞれに、あるいはお互いに連携する中で、取組を行ってきました。

第三次推進計画(改訂版)の取組については、平成30年度～令和6年度まで毎年年度末に児童館、放課後児童クラブ、つどいの広場、子育て支援センター、学校、保育園、図書館を対象に進捗状況のアンケートを行い、それを基にしたPDCA²⁾による検証を行ってきました。その検証を基に、成果と課題についてまとめました。

<第三次推進計画 実施目標>

1. 子どもの自主的な読書活動の推進
2. 家庭・地域・図書館・学校等の連携
3. 子どもが読書に親しむ環境の整備・充実
4. 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

2 達成状況

第三次推進計画では、以下①～⑥の6つの数値目標を設定しました。

① ブックスタートで配布した本の読書率(実施目標…3)

平成29年度	目標数値 (令和6年度)	令和5年度結果	H29とR5の比較
98.0%	100%	98.2%	0.2ポイント増

北杜市立図書館では、1歳のお子さんに絵本をプレゼントするブックスタート事業を平成17年度から継続して実施しています。この事業はネウボラ推進課と連携し、親子が絵本を介してコミュニケーションを深めるとともに、保護者も本に触れる機会が持てるようにという思いのもと行っています。令和5年度末に実施したアンケートでは、ブックスタートで絵本をもらった保護者のうち、98.2%(489人中480人)がその絵本を家庭で読んだと回答しています。令和5年度は0.2ポイントの微増に留まっており、

目標値の100%には達していないものの、高い数値を維持しています。

また「選んだ本は満足しましたか」という問いに対しては、96.7%(489人中473人)の保護者が「満足した」と回答しており、満足度はとても高くなっています。

② 本の杜への招待状事業における絵本引換率

事業仕分けにより令和3年度より中止

③ ブックスタート・読み聞かせ・朗読ボランティアの登録数及び活動状況 (実施目標…2, 3, 4)

	平成29年度	目標数値 (令和6年度)	令和5年度結果	H29とR5の比較
登録数(延)	174人	180人	167人	7人減
活用率	83.3%	85.0%	85.0%	1.7ポイント増

(活用率＝登録者数に対する年間活動実績により算出)

令和5年度末のボランティアの登録数は、延べ167人となっており平成29年度と比べて7人の減となっていますが、これはコロナの影響により、ブックスタートに携わるボランティアとして登録していた人が活動出来なくなったための減となっています。活用率を見ると、目標の85.0%に達しており、子どもの読書活動を支えるために、多くのボランティアのみなさんに活動していただいていることがうかがえます。

④ 週3回以上家庭の中でお子さんに本を読んだり、一緒に本を読む回数の割合 (実施目標…2, 3, 4)

平成29年度	目標数値 (令和6年度)	令和5年度結果	H29とR5の比較
51.0%	55.0%	53.9%	2.9ポイント増

令和5年度末に保育施設の保護者を対象に実施したアンケートでは、「家庭の中でお子さんと一緒に本を読むことがありますか」という問いに対して、「毎日読む」または「1週間に3回程度読む」と回答した人が53.9%(557人中300人)で、平成29年の51.0%を上回っています。また、「ほとんど読まない」と回答した人は、平成29年度の17.5%に対し、令和5年度は6.5%(557人中36人)と減少しています。この結果から、家で子どもと一緒に読書を楽しむ家庭が増えていることがうかがえます。

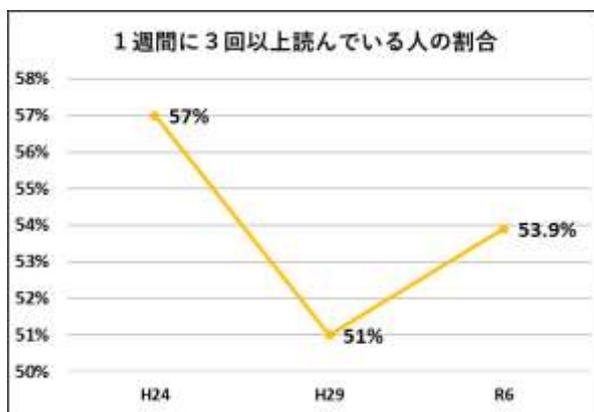
また、「お子さんは本を読んでもらうことが好きですか」という問いに対しては、80.8%(557人中450人)が「好き」と回答しており、「ブックスタート後、お子さんに絵本を読んであげる機会が増えましたか」という問いに対しては、「増えた」または「ブックスタート以前から読んでいた」と回答した人が 80.4%(489人中393人)にのぼり、これは平成29年度の66.8%を大幅に上回っています。このことから、多くの家庭で日常的に読み聞かせを行っており、本を読んでもらうことが好きな子どもが多いことがうかがえます。「お子さんに本を好きになってほしいと思いますか」の問いには、94.3%(557人中525人)の保護者が「はい」と回答していること、また「どうすれば、お子さんが本を好きになると思いますか」の問いには、77.2%(557人中430人)の保護者が「大人が読んであげる」と回答していることから、読み聞かせの大切さを理解している保護者が多いことがわかります。

今後も引き続き、家庭における読み聞かせ等を含め、家族みんなで一緒に読書を楽しむ機会を増やすような取組の推進が求められます。

Q:家庭の中でお子さんと一緒に本を読むことがありますか。

H24、29年度は「毎日読んでいる」「一週間に3回以上読んでいる」と回答した人の割合

R6年度は「毎日読む」「1週間に3回程度読む」と回答した人の割合



⑤ 本を読むことが好きな児童・生徒の割合(実施目標…1)

	平成29年度	目標数値 (令和6年度)	令和5年度結果	H29と R5の比較
小学生	87.2%	90.0%	75.3%	11.9ポイント減
中学生	74.4%	80.0%	58.0%	16.4ポイント減

令和5年度末に実施したアンケートでは、本を読むことが好きだと回答した小学生が75.3%(1635人中1231人)、中学生が 58.0%(936人中543人)となっており、平

成29年度と比べそれぞれ 11.9 ポイント、16.4 ポイントと大幅な減となっています。学年を追いながら細かく見ていくと、本を読むことが好きな割合は、低学年で 85.8%(513人中440人)、中学年で73.7%(544人中401人)、高学年では 67.5%(578人中390人)、中学生は、58.0%(936人中543人)となっており学年が進むにつれ「好き」と答える割合が減少しています。

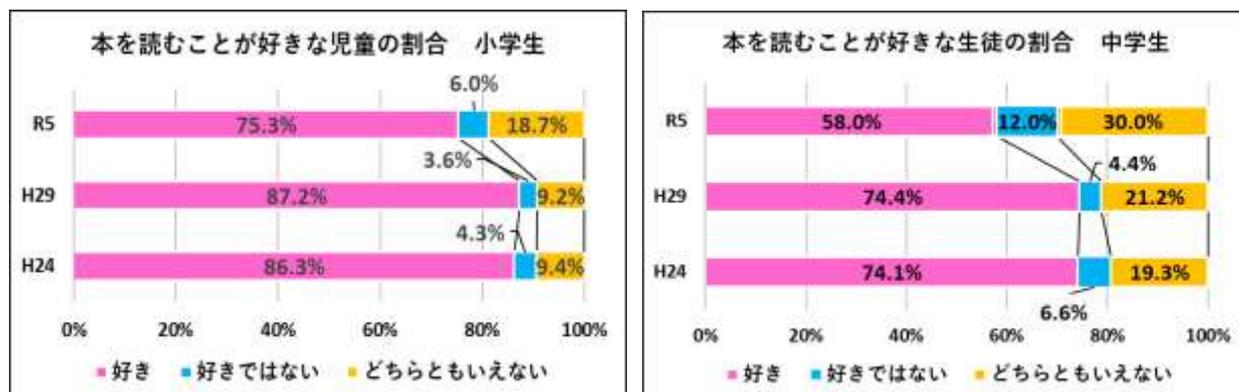
一方「好きではない」と回答した割合は、低学年で5.3%(513人中27人)、中学年で7.4%(544人中40人)、高学年では6.9%(578人中40人)、中学生では11.9%(936人中111人)となっています。

また、「好きか嫌いかどちらとも言えない」と回答した小学生の割合は、低学年で9.0%(513人中46人)、中学年で18.8%(544人中102人)、高学年では 25.3%(578人中146人)、中学生で 30.0%(936人中281人)であることから、好きではない児童・生徒はもとより、「どちらとも言えない」と回答している児童・生徒をいかに「好き」な方向に導いていくかが課題であることがわかります。

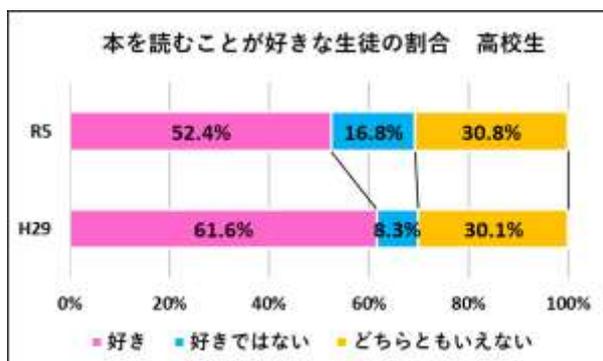
好きな割合が減っている背景には、コロナによる社会情勢の変化によるデジタル化の進展に伴い、YouTube などの様々なコンテンツが出現したことにより「好きなこと」の興味が、SNS に移行し、デジタル技術を長時間使うことで読書体験が減っていることが考えられます。また、学年が上がるにつれて厚い本を読む機会が増える中で、段階を踏んだ読書体験がないと、読む子と読まない子の差が生じ、読まない子は、より SNS の利用に向かい、本を読むことが「嫌い」もしくは「どちらともいえない」になるのではないかと考えられます。

こうしたことから保護者や子どもを取り巻く大人が、読書に目を向け読書の楽しさを実体験でき、生活の一部として定着していけるような取組が必要です。そのためには、子どもたちの生活の基となる家庭内で、デジタルデトックス³⁾の時間を設け、その時間を家族で一緒に読書をする「家読(うちどく)」⁴⁾に充てるなどの環境作りをしていくことが必要です。また家読を支援するため、図書館や学校図書館からのおすすめ本などの情報発信を行っていくことも必要です。

Q:あなたは本を読むことが好きですか。



Q:あなたは本を読むことが好きですか。



⑥ 月1回以上北杜市立図書館を利用する児童・生徒の割合(実施目標…1, 2, 3, 4)

	平成29年度	目標数値 (令和6年度)	令和5年度結果	H29とR5の比較
小学生	50.7%	53.0%	48.5%	2.2ポイント減
中学生	37.7%	40.0%	33.1%	4.6ポイント減
高校生	27.5%	30.0%	15.9%	11.6ポイント減

令和5年度末に小、中、高校生を対象に実施したアンケートでは、「あなたは市の図書館にどれくらい行きますか」という問いに対して、「月に1回以上行く」と回答した小学生が48.5%(1635人中793人)、中学生が33.1%(936人中310人)、高校生が15.9%(936人中149人)となっています。平成29年に比べ、それぞれ2.2ポイント、4.6ポイント、11.6ポイントの減となっており、どの世代も減少しています。「行かない」理由としては、低学年では「一人ではいけないから」が最も多く、中学年、高学年では「忙しいから」となっています。また、中学生と高校生では「忙しいから」が最も多く、次いで中学生は「他に好きなことがあるから」高校生は「面倒くさいから」となっています。

小学生では、自身の忙しさもさることながら、親の忙しさも影響し「行きたくても行けない」状況も推測されます。また、中学生と高校生は、部活や習い事などで忙しい日々を送っていることや読書以外に興味があり、そちらに時間を費やしていることがうかがえます。

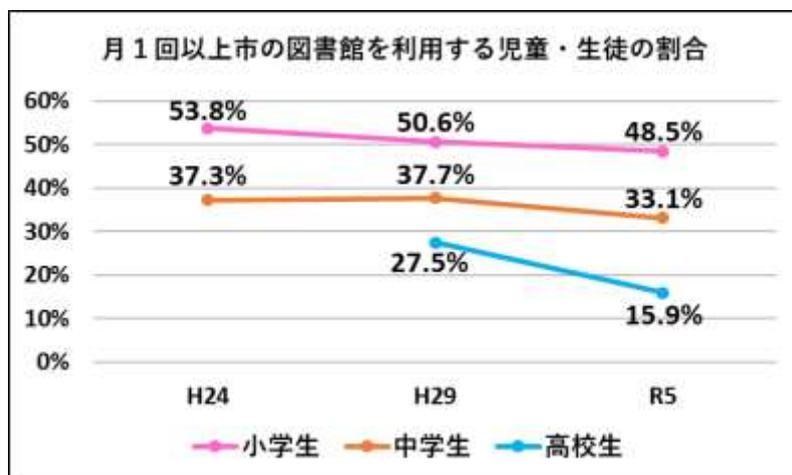
今後は、電子図書館の導入や学校図書館の充実を図るなど小、中、高校生のニーズに合わせた図書館のあり方を考えていくことが必要です。

2)PDCA:Plan-Do-Check-Action 計画-実行-評価-改善

3)デジタルデトックス:スマートフォンやPCなどデジタル機器から離れる時間

4)家読^{うよみどく}:家庭で家族と一緒に本を読み感想を話し合うことでコミュニケーションを図ることを目的とした取組

Q:あなたは市の図書館にどれくらい行きますか。



3 数値目標以外の取組状況

① 家庭における北杜市立図書館の利用

平成29年度末に保育施設の保護者を対象に実施したアンケートでは、「お子さんと一緒に北杜市立図書館に行きますか」という問いに対して、「よく行く(1週間に3回程度)」「ときどき行く(2週間に1回程度)」と回答した人の割合が20.0%となっていました。令和5年度に実施したアンケートでは19.6%(557人中109人)と微減しているもののほぼ横ばいという結果が出ています。また、「北杜市内で開催されているおはなし会やイベントに参加したことがありますか」という問いに対しては、「ある」と回答した人が平成29年度は38.6%、令和5年度は36.8%(557人中205人)、で以前に比べるとこちらも微減しています。図書館に「行かない」理由としては、「仕事が忙しいから」が50.9%(165人中84人)と一番多く、次いで「家事が忙しいから」「図書館に興味がないから」「子どもが本を破いたり汚す、騒ぐなど図書館に迷惑をかけたくないから」という理由が多くなっています。また、おはなし会やイベントに参加したことが「ない」理由としては、「開催されていることは知っていたが開催日時が合わないから」が45.5%(352人中160人)と一番多く、次いで「家事が忙しいから」「子どもが騒いだり、じっとしてられず、迷惑をかけてしまうから」となっています。

子どもがおはなし会に参加したり、図書館を利用するためには、保護者の手助けが必要となります。土曜日の午後におはなし会を実施している図書館の最近の参加状況を見ると、父親が子どもを連れて参加している姿が多く見られます。父親の育児参加が増えていることを踏まえ、おはなし会の実施時間や実施曜日などを見直し、参加しやすい体制を整えることが必要だと考えられます。また、保護者が「行ってみたい」「参

加してみたい」と興味を持てるような図書館の充実を図る必要があります。

② 児童館・放課後児童クラブ・放課後子ども教室・つどいの広場・子育て支援センターにおけるおはなし会の実施

市内には、児童館が4施設、放課後児童クラブが14施設、放課後子ども教室が9教室、つどいの広場が4施設、子育て支援センターが3施設あります。それぞれ実施回数に違いはありますが、令和5年度の実施状況を見ると、児童館は、4施設中3施設、放課後児童クラブは、14施設中6施設、つどいの広場は、4施設中全て、子育て支援センターでは、3施設中全てで実施されています。放課後児童クラブでの実施が4割程度にとどまっているのは、高学年クラスで実施されていないからです。

今後は、おはなし会という形式に捉われず、少人数単位での読み聞かせをいつでもどこでも誰にでも行える体制を整え、読書に親しめる環境を作っていく必要があります。



③ 児童館・放課後児童クラブ・放課後子ども教室・つどいの広場・子育て支援センターにおける団体貸出しの実施

コロナを境に団体貸出しの利用が増え、令和5年度は25施設中21施設が団体貸出しを利用しています。平成29年度の17施設の利用からは着実に増加していますが、子どもがより多くの本に触れる機会を得るために、現在利用のない施設を中心に更なるPRや本の置き場所を確保などの環境整備を促す必要があります。

④ 児童館・放課後児童クラブ・放課後子ども教室・つどいの広場・子育て支援センターにおける北杜市立図書館との共催によるイベントの実施

各施設からの依頼を受けて図書館職員が出向き、読み聞かせ等を行っていますが、共催でのイベントの開催は実施に至っていない状況です。5年間の状況を見ると、方策を見直す必要性があります。今後は、共催という形にこだわらず各施設のイベントの中に読み聞かせやパネルシアター等、本と触れ合う時間を確保し、図書館職員が協力するなどの形を検討していく必要があります。

⑤ 行政による活動の推進

図書館とニューボラ推進課の連携のもと、月1回1歳児健診の子どもを対象にブックスタート事業を行っています。また、市の子育て情報サイト「やまねっと」に図書館のおはなし会の様子を掲載したことで、部局を越えた情報発信が行われ、おはなし会への参加を促すことが出来ました。

一方で、外国籍の子どもや障がいを持っている子どもに対しては、図書館と学校だけでは手が届かない現状もあります。今後は、そのような子どもの居場所や関係施設との繋がりを密にし、必要な本を適切なところで提供できるような連携を図ることが望まれます。

⑥ 学校における朝の読書⁵⁾の推進、読書の時間の確保

<学校における朝の読書の実施状況>

年度	H30		R1		R5
	北杜市	北杜市	県	全国	北杜市
小学校	11/11	9/9	163/165		9/9
	100%	100%	98.8%	90.5%	100%
中学校	9/9	9/9	79/80		9/9
	100%	100%	98.8%	85.9%	100%
高校	2/3	2/3	17/31		2/3
	66.7%	66.7%	54.8%	39.0%	66.7%

小、中学校での実施率は100%となっていますが、実施回数で見ると、「毎日実施している」や「週に1～3回実施している」など、回数のバラつきが見られます。

読書を子どもたちの生活の一部として定着させるためにも文部科学省が推進する朝の読書を継続して推進していくことが望まれます。また、毎日実施していた学校が週1～3回に変わった理由として、その時間をタイピング練習や朝の学習など他の活動に入れ替えている状況があります。

朝の読書の時間を確保し、毎日実施できる環境を整えていくことが必要です。

5)朝の読書:ホームルームや授業の始まる前の10分間等を使い、自分の好きな本をみんなで読む取組。

⑦ 学校における読み聞かせ、ブックトーク⁶⁾の充実

<学校における読み聞かせ、ブックトークの実施状況>

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
小学校	11/11	8/9	7/9	6/9	8/9	9/9
	100%	88.9%	77.8%	66.7%	88.9%	100%
中学校	7/9	7/9	7/9	7/9	8/9	8/9
	77.8%	77.8%	77.8%	77.8%	88.9%	88.9%
高校	1/3	1/3	1/3	1/3	1/3	1/3
	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%

小、中学校から図書館へのおはなし会やブックトークの依頼も年々増えており、この取組に関する学校と図書館の連携も活発に行われています。小学校では、読み聞かせボランティアによる読み聞かせも年間を通して、計画的に行われている状況もあり、大人が子どもに良い本を手渡す機会が増えています。今後も積極的に推進していくことが望まれます。



⑧ 学校における家読(うちどく)の推進

<学校における家読の推進実施状況>

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
小学校	11/11	9/9	9/9	9/9	9/9	9/9
	100%	100%	100%	100%	100%	100%
中学校	9/9	8/9	9/9	9/9	9/9	9/9
	100%	88.9%	100%	100%	100%	100%
高校	0/3	0/3	0/3	0/3	1/3	1/3
	0%	0%	0%	0%	33.3%	33.3%

家読は、読書をきっかけに、家族のコミュニケーションを豊かにしようという試みであり、山梨県教育委員会の「しなやかな心の育成推進プロジェクト」の取組の一つでもあります。

令和5年度末に小、中、高校生を対象に実施したアンケートでは、「あなたは家で家族と一緒に読書をしますか」という問いに対して、「1週間に3回以上」と回答した小学生が 21.8%(1635人中357人)、中学生が3.0%(936人中28人)、高校生が 1.2%(936人中11人)となっています。平成29年の小学生が 19.6%、中学生

が 21.2%、高校生が1.2%と比べると、小学生が2.2ポイント増、中学生が18.2ポイント減、高校生が横ばいとなっています。

北杜市全ての小、中学校で家読が推進されており、各家庭で読書に親しむ機会を持つことにより小学生は少しずつではありますが効果がみられます。その一方、中学生は大幅な減となっています。毎年年度末に実施している進捗状況アンケートを見ると、長期休みを利用した単発的な取組に留まっていることから、日常的に行えるように推進していくことが必要です。また、高校での実施が少ないことから、機会拡大に向けた取組を推進していくことが必要です。

⑨ 保育施設における図書館職員及び図書館ボランティアによる読み聞かせ、おはなし会の実施

<図書館職員及び図書館ボランティアによる読み聞かせ、おはなし会の実施回数>

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
実施回数	52	27	1	0	6	28

<ボランティア、保護者による読み聞かせの実施園数>

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
実施園数	15/17	12/17	3/18	2/18	2/17	6/17
実施率	88.2%	70.6%	16.7%	11.1%	11.8%	35.3%

令和2年度～令和4年度はコロナにより実施回数が激減しましたが、令和5年度は実施回数が増加しました。コロナが5類に移行し、園の受入れ態勢も整ったことから、コロナ前の実施回数に近づくことが推測されます。

今後も本に親しむ機会をより多くするため、継続して実施していくことが望まれます。



6)ブックトーク:ひとつのテーマに従って、数冊の本を順序立てて紹介すること。紹介した本について、読書意欲を起こさせることを目的とする。

⑩ 保育施設における団体貸出し⁷⁾の実施

<実施状況>

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
実施園数	7/17	7/17	10/18	8/18	8/17	9/17
実施率	41.2%	41.2%	55.6%	44.4%	47.1%	52.9%

北杜市立図書館から保育施設への図書の団体貸出しは、17施設中9施設に留まっています。団体貸出しを利用すると30日間100冊まで本を借りることができ、それを定期的に行うことで、たくさんの本に触れ合うことができます。その利点を案内しながら、現在利用のない施設を中心に、更なる PR や本の置き場所を確保するなどの環境整備を促すことが課題です。

⑪ 保育施設における異年齢交流による読み聞かせの実施

<実施状況>

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
実施園数	1/17	0/17	0/18	0/18	-/17	-/17
実施率	5.9%	0%	0%	0%	—	—

異年齢交流による読み聞かせを実施している保育施設はありませんでした。小、中、高校生が職場体験や授業の一環として保育施設を訪問し、読み聞かせを行う機会はありませんでしたが、コロナ禍以降は「異年齢交流⁸⁾」という言葉が浸透していなかったため、計画の指標としてのカウントがなかったという現状が見えてきました。このことを受け、「異年齢交流による読み聞かせ」でなく、「小、中、高校生による読み聞かせ」とわかりやすく明記すること、また授業や職場体験等読み聞かせを行える機会や、場の確保が必要です。



7)団体貸出し:保育園や小学校など、団体利用者に対して図書館資料を貸し出すこと。

8)異年齢交流:小学生、中学生、高校生が幼稚園や保育施設の幼児に読み聞かせ等を行うこと。

⑫ 北杜市立図書館における児童資料の網羅的な収集

<児童資料の網羅的な収集:年度毎の購入冊数(寄贈除く)と一般図書との購入割合>

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
児童図書 購入冊数	1981	1821	1884	1633	1518	1768
一般図書 購入冊数	6355	5812	5872	5252	4561	4700
児童図書 の割合	23.8%	23.9%	24.3%	23.7%	25.0%	27.3%

北杜市立図書館における児童図書の新規購入冊数は、一般図書の購入に対しておよそ2割で推移していましたが、令和5年度は、児童図書購入のための特別予算を獲得し、調査探究図書として主に調べ学習に活用できる図書を購入することができ、児童図書の購入割合も27.3%と増加しました。

今後も予算の確保を行いながら、質の高い資料を整備していくことが必要です。

⑬ 北杜市立図書館におけるおはなし会、各種イベントの実施

<実施回数と参加人数(8図書館合計)>

年度	イベント種類	実施回数	延べ参加人数	年度	イベント種類	実施回数	延べ参加人数
H30	おはなし会(定例)	210	1413	R1	おはなし会(定例)	283	4385
	おはなし会(定例以外)	20	797		おはなし会(定例以外)	12	689
	その他イベント	18	959		その他イベント	22	1840
R2	おはなし会(定例)	1	45	R3	おはなし会(定例)	94	248
	おはなし会(定例以外)	3	27		おはなし会(定例以外)	7	124
	その他イベント	2	105		その他イベント	12	430
R4	おはなし会(定例)	159	1005	R5	おはなし会(定例)	267	3442
	おはなし会(定例以外)	32	1227		おはなし会(定例以外)	40	1632
	その他イベント	13	460		その他イベント	25	772



北杜市立図書館における令和2年度～令和4年度のおはなし会(定例・定例以外)、ブックトークやビブリオバトル⁹⁾などその他イベントの参加人数について見ると、コロナの影響により、中止または人数制限での実施となったため落ち込んでいますが、令和5年

度は実施回数、参加人数ともに大幅に増加しました。おはなしの楽しさや本の楽しさを感じてもらい図書館利用を促進するためにも、今後も継続して推進していくことが必要です。

⑭ 北杜市立図書館におけるブックスタート事業の展開

<実施回数と絵本配布数>

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
実施回数	12	11		13	12	12
絵本配布数	219	175	138	191	194	170

ブックスタートの対象人数＝配布数となっており、配布率は 100%となっています。プレゼントする本は、8タイトルの中から希望の本を選ぶことができるようになっており、前述した保育施設の保護者を対象としたアンケートでは、「選んだ本は満足しましたか」という問いに対して 96.7%(489人中473人)の保護者が「満足した」と回答しており、その満足度はとても高いものとなっています。よって、ブックスタート事業の展開は、乳幼児の読書活動の推進に大変有効な事業だと捉え、今後も継続して推進していく必要があります。

⑮ マタニティカフェ¹⁰⁾における読書活動の推進

<実施回数及び参加人数(父親含む)>

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
実施回数	3	3	3	3	3	3
参加人数	35	45	35	35	23	15

ネウボラ推進課の事業「マタニティカフェ」で、妊婦さんを対象に「今日から始める読み聞かせ」と題して、生まれてくる赤ちゃんと絵本を介して楽しい時間を過ごすための案内を図書館と連携して行っています。

ブックスタートでプレゼントする本の紹介や、その中の一冊の読み聞かせなども行い、ブックスタートへ繋げています。

保護者向けの読書推進活動として継続していくことが必要です。



⑯ 北杜市立図書館における学校図書館でのおはなし会、ブックトークの実施

<実施回数(8館合計)>

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
実施回数	19	25	3	15	17	25

北杜市立図書館が学校に出向いてのおはなし会、ブックトークの実施回数は、コロナの影響により減少したものの、令和5年度には25回と増加しました。小学校からは主に読み聞かせ、中学校、高等学校からは主にブックトークの依頼があります。読み聞かせやブックトークは、読書意欲の喚起やその後の図書館利用に繋げることができるため、今後も推進していくことが必要です。

また、学校図書館との連携会議を町毎、または近隣の町との合同で年2回程度実施し、子どもの読書活動の推進を図っています。学校の様子や子どもの様子、図書館の様子などを共有することはスムーズな読書活動の推進のために有効であり、今後も連携を深めていくことが必要です。

⑰ 北杜市立図書館における障がいのある子どもへの読書活動の支援

点字資料や LL ブック¹¹⁾、さわる絵本、大活字本、布絵本、朗読テープなどを所蔵し支援体制を整えていますが、利用は少ない状況です。所蔵していることを広報したり、利用しやすいように棚を作る(りんごの棚)¹²⁾などの工夫をし、重点的に推進していくことが必要です。また、行政の関係各課と連携しながら、それらを必要とする子どもに届けられる道筋を作ることも必要です。



9)ビブリオバトル:参加者同士で本を紹介し合い、最も読みたい本を投票で決めるイベント。

10)マタニティカフェ:妊娠中を健康で安心して過ごすための支援。健康で元気な赤ちゃんを産み育てるため、赤ちゃんの誕生を迎える両親が出産や育児について学ぶとともに、交流の機会を設け、仲間作りを行う。

11)LL ブック:やさしい言葉で分かりやすく書かれた本。ピクトグラム(絵文字)や写真・図を使って理解を助けている。

12)りんごの棚:特別なニーズのある子どもを対象とした公共図書館サービスの一つ。紙に印刷された資料だけではなく、読書を支援するための道具がある。一つの場所に集めることで、子どもが自分に適した資料に出会える手助けをする。

⑱ 北杜市立図書館における日本語を母国語としない子どもへの読書活動の支援

英語、フランス語、ドイツ語、中国語、朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語、ノルウェー語、タイ語、ネパール語などの資料を現在 982 冊所蔵していますが、利用することは少ない状況です。行政や関係機関と連携しながら、北杜市在住の外国籍の子どもの状況を把握し、そのニーズに合った収集をしていくこと、また、それらを必要とする子どもに届けられる道筋を作ることも必要です。

⑲ ボランティア研修の実施



図書館サービスを充実させていくためには、図書館ボランティアの協力は不可欠です。図書館とボランティアが連携し協働していくためには、資質向上のためのボランティア研修を継続的に実施して、図書館員と共に学んでいくことが必要です。

4 第三次推進計画における成果と課題

第2章で振り返ってきた第三次推進計画における取組及び成果と課題は次のとおりです。

○目標に達した指標

- ・ボランティアの稼働率(指標③)

○目標には到達しなかったが、ポイントが上がった指標

- ・ブックスタートで配布した本の読書率(指標①)
- ・週3回以上家庭の中でお子さんに本を読んだり、一緒に本を読む回数の割合(指標④)

○コロナの影響を受けたもの

- ・おはなし会やブックトーク、イベントの実施
- ・北杜市立図書館の利用

○課題

- ・北杜市立図書館では、子ども向けのおはなし会やイベント等を行ってきましたが、利用率の向上には至っていません。コロナ以降のデジタルシフトへの環境の変化に伴い、インターネットを利用した新しい取組が必要です。

○具体的な考察

- ・子どもが生涯に渡って読書を楽しめるように、子どもを支える保護者や大人が日頃から読書に目を向け、子どもが読書の楽しさを日常的に実体験でき、生活の一部として定着していけるような取組が必要です。
- ・子どもが何をきっかけに本を手にとっていくのかを掘り起こしていくことが必要です。
- ・小、中、高校生がタブレット等を利用して、自ら北杜市立図書館の本を予約出来る環境作りが必要です。
- ・家庭や地域での読書活動を推進するために、保護者やボランティアを対象とした研修の充実が必要です。
- ・パソコンやスマートフォン、タブレットで小説や雑誌、マンガ等を読む小、中、高校生の割合が高くなっている現状を踏まえ、電子書籍の導入を含めた読書活動の選択肢を広げていくことが必要です。
- ・中、高校生の読書離れ、図書館離れを改善するために、中、高校生に向けたイベント

の実施が必要です。

・行政や関係機関と連携し、障がいを持つ子どもや日本語を母国語としない子どもへ本を届ける支援が必要です。

第3章 第四次計画の基本的な考え方

1 基本的な考え方

子どもの読書活動の推進にあたっては、子どもが、いつでも、どこでも読書に親しむことができる環境を整え、本市の未来を担う子どもたちが、夢の実現に向けて、他者への思いやりを大切にしながら、たくましく、しなやかに生活するために多くの本と出会い、読書の楽しさや知る喜びを体験できるよう、家庭、地域、図書館、学校等がそれぞれの役割を明確にし、その役割を果たすべく連携・協力しながら、市全体で子どもの読書活動の推進に取り組んでいきます。

さらに、子どもの自発的な読書習慣を身に付けるためのきっかけとして、読書相談や様々な機会を通じて読書に対する普及・啓発活動を行う等、子どもと本に関する専門的な知識を身に付けた人材の育成、地域のボランティアの育成にも取り組んでいきます。

市では、国や県の計画内容を基本とするとともに、本市における子ども読書活動の推進状況を踏まえ、第四次北杜市子ども読書活動推進計画を策定し、基本的な考え方や、家庭、地域、図書館、学校等の役割、計画の目指すものを示します。

2 国、県の基本的な考え方

国では、令和5年3月に第五次の基本的な計画を策定し、「不読率の低減」「多様な子どもたちの読書機会の確保」「デジタル社会に対応した読書環境の整備」「子どもの視点に立った読書活動の推進」が基本の方針として示されました。

背景として、令和元年6月に公布・施行された、読書バリアフリー法(視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律)や令和2年に策定した読書バリアフリー基本計画(視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画)があります。

さらに令和3年9月のデジタル庁の設置をはじめとする教育におけるデジタル化の進展など地域の教育力向上に向けて、ICT¹³⁾等の新しい技術を活用しつつ多様な主体と連携、協働しながら魅力的な教育活動を展開し、ひとづくり、地域づくりを行う取組を促進すること等が挙げられています。

県では、国の基本的な計画を基本とするとともに、山梨県における子どもの読書活動の推進状況を踏まえ、第4次推進実施計画を策定し、○社会全体での取組 ○人材の育成 ○環境整備・充実 ○普及・啓発を基本方針としています。

計画の基本理念として「全ての子どもたちに豊かな読書体験を～豊かで幸せな人生(ウェルビーイング)につなげるために～」を掲げ、家庭、地域、図書館、学校等の役割について示しています。

3 社会全体で子ども読書活動を推進するために

子どもの読書活動を推進するためには、市全体で取り組む必要があり、教育委員会のみならず、子ども政策部や福祉保健部等の各部局と連携することにより、家庭、地域、図書館、学校等による横断的な取組が行える体制とします。

また、計画において、それぞれの役割、方策を具体的に示し、社会情勢の変化や取組の状況における計画内容や達成度等について、PDCA サイクルを実施し、効果的・効率的な活動を行います。

4 計画のめざすもの

○子どもの自主的な読書活動の推進

子どもが自ら進んで読書活動に親しみ、読書習慣を身に付けていけるよう、子どもの興味・関心を尊重しながら自主的な読書活動や読書習慣の定着を促すために、読書活動を推進します。

○家庭、地域、図書館、学校等の連携

子どもが読書の楽しさや意義を知り、生涯にわたる読書習慣を身に付けるためには、家庭を中心とした地域全体における取組が必要とされています。家庭、地域、図書館、学校等がそれぞれ担うべき役割を果たし、それぞれが連携し、相互に協力して子どもの読書活動のための取組を推進します。

○子どもが読書に親しむ環境の整備・充実

子どもがあらゆる機会と場所において、自ら読書活動に親しむことができる環境を整えることが大切です。子どもたちが進んで読書体験を深めることができるような環境づくりに努めます。

○子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

子どもが自ら積極的に読書に親しむためには、子どもを取り巻く大人たちが、子どもの読書活動に対する関心を持つことが大切です。さまざまな機会を通じて、読書活動に対して理解が得られるよう、読書活動が果たす役割や意義、重要性について広く普及・啓発を図るよう努めます。

5 計画の期間

第四次北杜市子ども読書活動推進計画の期間は令和7年度から令和11年度までの5年間とし、更なる子ども読書活動の推進を図ります。

第4章 子どもの読書活動推進のための具体的な方策

1 家庭における子どもの読書活動の推進

子どもが本に触れ、本を読む楽しさを知り、より良い読書習慣を身に付けるためには、生活の基盤となる家庭の果たす役割が大変重要になります。

幼いころから家族や身近な人と本を介してふれあうことで、豊かな感性や思いやりの心を育み、想像力を養い、家族の愛情を確かめることができます。また、身近な大人が意欲的に読書活動に取り組み、家庭における読書環境を整えることによって、子どもの読書への関心を高めることができます。

○北杜市立図書館の利用

- ・本の貸出しやイベントへの参加をとおして、図書館の利用促進を図る。

○ブックスタートの活用

- ・ブックスタートの絵本を活用して、子どもへの語りかけや読み聞かせを実践する。

○家読の実施

- ・家庭において、週1回または2週間に1回程度の「家読の日」を設定し、家族で読書に関する時間を共有する。

○家庭での読み聞かせ

- ・保護者(大人)による子どもへの読み聞かせ
- ・子どもどうしによる読み聞かせ

○読書に関する情報の収集



2 地域における子どもの読書活動の推進

地域には、児童館、放課後児童クラブ、放課後子ども教室、つどいの広場、子育て支援センターなど、学校以外にも子どもが学び、健やかに成長するための活動の場が多くあります。これらの場所での活動と読書活動をリンクさせ、ボランティアや保護者等の協力を得ながら、地域全体で子どもの読書活動を推進していきます。

○児童館・放課後児童クラブ・放課後子ども教室・つどいの広場・子育て支援センター等における読書活動の推進

- ・おはなし会の実施
- ・団体貸出しの利用

- ・近隣の北杜市立図書館との連携によるイベントの開催

3 学校における子どもの読書活動の推進

学校図書館は、小、中、高校生の読書習慣を形成するうえで、非常に大きな役割を担っており、読書を通じて豊かな人間性を育む活動の拠点である「読書センター」としての機能と、児童・生徒の自発的、主体的な学習活動を支援する「学習情報センター」としての機能を果たしています。また、近年は子どもたちの居場所としての役割も担いつつあるため、各学校は、学校図書館がこのような機能を十分果たせるような環境整備を進める必要があります。

- 学校図書館利用のためのオリエンテーションの実施(児童、生徒、教職員対象)
- 「朝の読書」の推進(読書の時間の確保)
- 家読の推進
- 読み聞かせ、ブックトーク等の充実
 - ・分掌間の連携による、読書習慣の促進
- 調べ学習の支援
- 子どもの意見を取り入れた学校図書館の運営
 - ・図書委員会活動の活発化
 - ・図書委員の児童・生徒等による「知的書評合戦(ビブリオバトル)」「読書会」「おすすめ本の展示」などの主体的な取組
- 多種多様な図書に触れるための展示・掲示の工夫
 - ・広いジャンルのテーマ展示及び掲示の実施
- 多様な子どもたちが、読書の機会を得るための工夫
- 学校図書館の蔵書の充実
- 学校行事、授業における学校図書館の利活用
- デジタル社会に対応した読書環境の整備及び読書活動の工夫と推進
- 北杜市立図書館との連携
 - ・学校図書館と北杜市立図書館による連携会議の開催
 - ・北杜市立図書館からの団体貸出しの利用
 - ・読書マラソンの実施
- 学校図書館ボランティア・保護者等による読書活動への協力



4 保育施設における子どもの読書活動の推進

保育施設においては、保育士等が日常的に読み聞かせ等を行い、園児が読書に親しむ取組が積極的に行われています。また、子育て支援センターが併設されている認定こども園では、子どもが保護者と一緒に読み聞かせを楽しむことができる環境づくりが必要となります。

○おはなし会の実施

- ・図書館ボランティア、保護者等による読み聞かせ

○北杜市立図書館との連携

- ・北杜市立図書館の職員によるおはなし会
- ・子どもの発達段階に応じたブックリストの配布と活用
- ・家庭における読み聞かせの推進

○北杜市立図書館からの団体貸出しの利用



5 行政による子どもの読書活動の推進

北杜市の将来を担う子どもたちが、より良い読書習慣を身に付け、豊かな心を育むためには、市全体で子どもの読書活動を推進していく必要があります。子どもの育成に関わる行政機関は、北杜市立図書館と連携を図りながら、読書活動を推進していきます。

【関連行政機関】

○ネウボラ推進課

- ・北杜市立図書館との連携による、マタニティカフェ事業等の開催
- ・乳幼児健診におけるブックスタート事業の協力

○子育て政策課、こども保育課

- ・図書館との連携を図り、保育施設や児童館、放課後児童クラブ等でのおはなし会やイベントへの支援、協力
- ・子ども・子育て会議など子育て世代を中心とした意見の集約

○教育総務課

- ・学校図書館の充実、学校司書の配置など学校における環境整備、機能の充実が図られるよう支援
- ・学校図書館における各事業への支援・協力
- ・校長会、学校図書館司書部会への情報提供や意見集約

○生涯学習課

- ・各種講座やホールイベントにおける、テーマに沿った関連資料の紹介や、展示との関連付けなど、地域による「読書活動」の活性化を図る
- ・社会教育関係機関などの意見を基に、図書館を含めた生涯学習施設のあり方を調査・研究

6 北杜市立図書館における子どもの読書活動の推進

北杜市立図書館は、子どもの読書活動を推進するうえで、中核的役割を果たす施設であり、子どもが豊富な図書の中から自分の興味に沿った本を自由に選択し、読書の楽しみや知識を得る喜びを知ることができる場所です。また、保護者にとっては、子どもの本を選び、子どもの読書について相談できる場所でもあります。

北杜市立図書館では、おはなし会やおすすめ本の展示等を実施し、地域住民団体やボランティアグループ、学校図書館等の子どもの読書活動の推進に携わる機関と連携を図り、さまざまな事業を展開しながら、子どもたちが生涯を楽しく健やかに暮らせるための知的好奇心に応えられるよう、よりよい子どもの読書環境整備に努めていきます。

○図書館資料の充実及び計画的な資料整備

- ・地域資料、調査探究資料、ヤングアダルト¹⁴⁾資料の充実

○デジタル社会に対応した読書環境の整備及び読書活動の工夫と推進

○子どもの主体的読書活動を取り入れるための工夫

- ・イベント等の実施において、中、高校生に対して企画段階から参加を募る
- ・職場体験等の時に、子どもの意見を取り入れた体験を実施する

○おはなし会、各種イベントの実施

○ブックスタート事業の展開

- ・ブックスタート(12か月健診時)や各健診時に、絵本の読み聞かせや絵本のプレゼント、おはなし会の案内、おすすめ本リストの配布、読書相談を行う

○マタニティカフェをはじめ、おはなし会等への参加を促す読書活動の推進

- ・ネウボラ推進課と連携し、親子で読書に親しむ機会を持つことの大切さを伝え、乳児期からの読書活動を促す
- ・子どもへの読み聞かせ(語りかけ)の大切さ、ブックスタート事業の趣旨を説明する

○読書マラソン

- ・学校図書館と北杜市立図書館が連携して、乳幼児期からの発達段階に応じたお

すすめ本リストを作成し、市内保育施設、小、中学校、乳幼児健診対象者へ配布する。

○学校・学校図書館との連携

- ・読み聞かせ、ブックトーク等の実施
- ・調べ学習等における資料の相談、提供
- ・読書マラソンの実施
- ・職場体験、施設見学等の受入れ
- ・学校図書館と北杜市立図書館による連携会議の開催

○保育施設との連携

- ・おはなし会、読み聞かせ等の実施
- ・園内利用における資料の提供
- ・読書マラソンの実施

○障がいのある子どもへの読書活動の支援及び相談

- ・障がいの種類や特性に応じた図書資料の収集や提供、おはなし会等の実施
- ・障がいをテーマにした本、障がいを理解するための資料の整備
- ・障がいのある子どもの読書に関する相談

○日本語能力に応じた支援を必要とする子どもへの読書活動の推進

- ・外国語資料の収集と提供
- ・多様な言語や価値観を持つ外国文化を理解するための読書環境づくり
- ・分かりやすい図書館の利用案内、館内表示の整備

○子どもの読書に関する相談、レファレンス¹⁵⁾の充実

○情報提供

- ・図書館情報誌「やまね便り」の発行
- ・おすすめ本リストの発行
- ・SNSでの情報発信
- ・図書館ホームページ、広報での情報発信

○ボランティアの研修、活動の場の提供

○子どもの読書活動に関する職員研修の実施

○地域団体との連携

○地域住民への周知

○関係機関との連携

○市役所各部局との連携



7 子ども読書活動推進の啓発・普及

子どもの読書活動を推進していくためには、家庭、地域、学校等が中心となって社

会全体で取り組む必要があり、読書活動関係者の連携、協力のもと、子どもの発達段階に応じた取組や、読書への関心を高める取組が必要です。そのためには、子どもをはじめ、子どもを取り巻く大人への啓発にも積極的に取り組み、子どもの読書活動の推進に対する意識の向上を図り、理解を深めていくことが重要です。

- 各種読書イベント等の情報収集と提供
- 「子ども読書の日」(4月23日)、「こどもの読書週間」(4月23日～5月12日)、「読書週間」(10月27日～11月9日)等における普及・啓発
- インターネット、SNS を活用した普及・啓発
- 子どもの読書活動の意義や重要性を伝える取組

8 子ども読書活動推進体制の確立

子どもの読書活動を効果的に推進していくためには、家庭、地域、図書館、学校、その他の関係機関及び民間団体等が、それぞれの役割を十分に果たしつつ、情報を共有し、連携・協力しながら、社会全体で取り組んでいく必要があります。北杜市立図書館ではこの計画を推進するため、毎年調査を実施し、進捗状況の把握に努め、改善への取組を行うなど PDCA サイクルを実施していきます。

- 山梨県立図書館、山梨県内公共図書館、国立国会図書館等との連携・協力強化
 - ・山梨県子ども読書支援センターの活用
 - ・図書館と諸機関との連携、協力
 - ・資料の相互貸借
 - ・山梨県内公共図書館発行の「こどもにすすめたい本」¹⁶⁾の選定・活用
- 関係機関・団体やボランティアとの協働
 - ・北杜市立図書館との協同によるイベントの開催
 - ・ボランティア研修の実施や情報提供及びボランティアバンクの充実

13)ICT:情報通信技術のこと。コンピュータ、インターネット、スマートフォン、人口知能などの技術が含まれる。

14)ヤングアダルト:おおむね12歳から18歳の中学生、高校生を中心とする世代。

15)レファレンス:利用者からの質問に対し、回答となる情報そのもの、あるいは回答までの道筋となる情報を提供するサービス。

16)こどもにすすめたい本:山梨県内公共図書館等の司書が選定した楽しく読める本・子どもの成長に有益な本 100 冊。

第5章 計画の推進に向けて

1 数値目標

第四次計画の推進にあたり、子どもの読書活動の理念の実現に向けて、達成が期待される数値目標を設定します。

指標名	実施機関	令和6年度 (実績値)	令和11年度 (目標値)	推進機関
ブックスタートで配布した本の読書率	図書館	98.2%	100%	図書館
読み聞かせボランティアの活用率	図書館	登録数(延) 112人	登録数(延) 120人	図書館
	図書館	活用率 85.0%	活用率 85.0%	
週3回以上家庭の中でお子さんに本を読んだり、一緒に本を読む割合	保育施設	53.9%	55.0%	保育施設 こども保育課
家読(週3回以上家族と一緒に本を読む児童・生徒)の割合	小学校	21.9%	30.0%	小、中学校 教育総務課
	中学校	3.0%	10.0%	
	高等学校	1.2%	5.0%	高校
北杜市立図書館を全く利用しない児童・生徒の割合	小学校	23.0%	10.0%	小、中学校 教育総務課 図書館
	中学校	30.5%	20.0%	
	高等学校	62.5%	30.0%	高等学校 図書館
1か月間に読んだ本の冊数	小学校	13.8冊 (全国)	15冊	小、中学校 教育総務課
	中学校	4.1冊(全国)	6冊	
	高等学校	1.7冊(全国)	2冊	高等学校
不読者の割合(1か月間に読んだ本が0冊)	小学校	8.5% (全国)	7.0%	小、中学校 教育総務課
	中学校	23.4% (全国)	13.0%	
	高等学校	48.3% (全国)	43.0%	高等学校



指標名	実施機関	令和6年度 (実績値)	令和11年度 (目標値)	推進機関
本を読むことが好きな児童・生徒の割合	小学校	75.2%	90.0%	小、中学校 教育総務課
	中学校	58.0%	80.0%	
	高等学校	52.4%	70.0%	高等学校

※R6年度の数値は次の資料による

- ・「令和5年度子ども読書活動アンケート調査」(令和6年2月実施)
- ・「2024年度学校図書館調査」(全国学校図書館協議会:2023年6月実施)

参考資料

- ・経過報告
- ・子ども読書活動の推進に関する法律
- ・北杜市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱
- ・委員名簿
- ・活動施設一覧
- ・アンケート結果

2 施策体系

